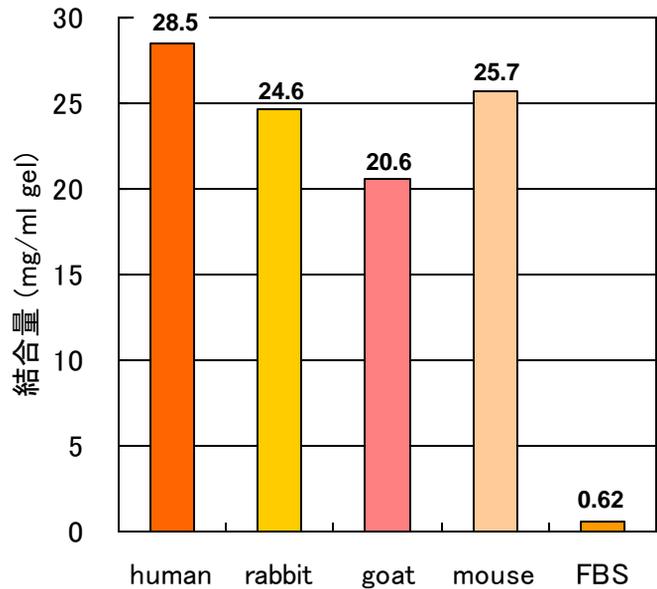


Ab-Rapid SPiN™ を用いた 各種動物血清からのIgG精製

操作の流れ

各種血清 0.3mL
↓
PBS にて2倍希釈
↓
Ab-Rapid SPiN に添加
↓
反応 (1時間)
↓
洗浄 (PBS), 5分間×3回
↓
0.1 M Glycine-HCl (pH 2.5), 5分混和, 溶出
(1 M Tris を添加して中和)

血清中 IgG の精製量比較



電気泳動結果

SDS-PAGE

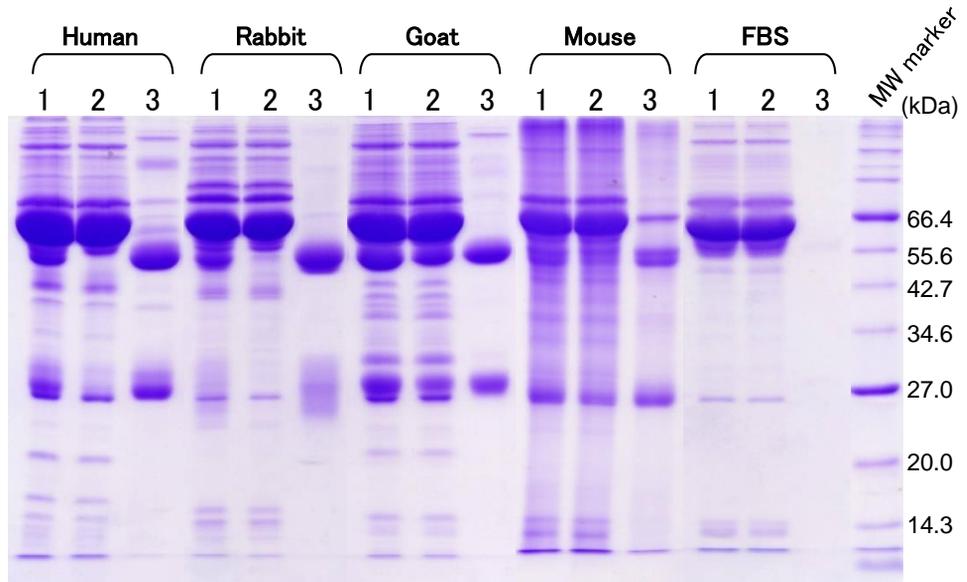
ゲル: 12.5 % (Tris-Glycine)

染色: CBB

レーン 1: Serum

レーン 2: Flow through

レーン 3: Eluate



5種類の動物血清から Ab-Rapid SPiN を用いてIgGを精製し、その収量と純度を比較した。その結果、FBSを除くすべての動物の血清から 20mg/mL gel 以上のIgG精製量であった。血清のIgG含量を10 mg/mL とすると、30 mg/mL gel 量の血清から精製したことになるので、十分な回収率で各種動物血清からそれぞれIgGを精製できたといえる。FBSはもともとIgG含量が低いために、今回の精製では収量が低かったのではないかと推測される。